

市長と語ろう！ふれあい懇談会（大和会場） 議事録

開催日時 2018年11月29日 19時30分～21時15分

開催場所 郡上市役所大和庁舎 研修室

出席者 市長・教育長・市長公室長・総務部長・建設部長・総務課長・秘書広報課長・
大和振興事務所長

来場者数 80人

▼市長（あいさつ・市政報告）

大和では、全域で土砂災害の警戒が高まり避難情報が出された。また、長良川が増水し危険と判断され、郡上偕楽園の入所者の皆さんには大和庁舎へ避難していただいた。その際には、関係者の皆さんのご協力により無事に避難することができた。本来なら避難の必要が無い安全な場所に養護老人ホームなどはあるべきであり、現在新たな場所を検討している。

大和の今年度の事業の中で、「(仮称)短歌交流館」の建設事業が記載してあるが、これはフィールドミュージアム入口付近の現在売店がある場所に「(仮称)短歌交流館」を建設し地域の活性化をはかるものである。この施設には、大和庁舎にある島津文庫の蔵書なども納め、短歌でのまちづくりイベントなど行えるようにしていく。今年度と来年度で予算化し総事業費は2億円ほどかかるが、来年度の建物完成をめざす。

道の駅改修事業は、本日の新聞にでていたが、岐阜県内の道の駅を活用してホテルを建てる構想がある。これは、「積水ハウス」と「マリオットインターナショナル」が手を組み全国展開していくもので、岐阜県内では、郡上市、美濃市、美濃加茂市、高山市の4か所の道の駅周辺にホテルを建設する。ホテルの食事や温泉は大和の道の駅を使用するなど密接に連携する。事業者の計画では建物は3階建てで85室あり、再来年2020年10月完成予定ということだ。

国の直轄事業だが、国道156号線の大和町上剣から大和町万場へ向かう橋が完成しているが、大和町万場から白鳥町中津屋へ渡る橋が平成32年度に開通する目途が国土交通省から示された。

※上記以外は、ふれあい懇談会美並会場と同様の内容

- ・7月豪雨、猛暑、9月台風について
- ・人口ピラミッドについて
- ・財政について
- ・観光立市の推進について

▼総務部長（防災について）

資料説明

▼司会 大和振興事務所長（地域テーマ：大和地域の未来について）

◆発言者①

小学1年生と4年生の娘が2人おり、1年生の学年は全員で6人、女の子は2人しかいない。最近、学校から合併についてのアンケートがきた。近いうちに学校は合併され廃校問題を抱えることになると思うのでそれについて提案がある。現在、大和には4か所小学校があるが、廃校になった後の活用例を考えると、老人が多いので「老人ふれあいセンター」など介護施設や企業向けの工場倉庫、事務所、移住者やUターン者向けのシェアハウスなど考えられるが、今回は、夢の話なので若い人のアイデアや夢の話をする。各教室を個々に貸し出しギャラリーにしたり、カフェ、ハンドメイド、雑貨、ファッション、ワークショップをイメージする。まず、廃校をいち早く全国的におしゃれに変えるためには、若者が行ってみたい場所にするのである。パソコンやスマホでインターネットをアクティブに使いこなす若者をターゲットに、郡上市の若者が働ける場所になればよい。Uターンして起業し自分のスキルを生かせる、自分がやりたいことができる所になればよい。私たちの世代はインスタグラムやツイッター、フェイスブックなどSNSから情報を得ることが多い。そこでいかに目に止まるかが重要。例えば、小学校の壁などにアートを描きその前で写真が撮れれば、若者が集まる場所になる。また、郡上市には大きな公園が無いので運動場に大型遊具を設置すれば集客が見込める。さらにそこで買い物をしたりカフェなどあれば、人が集まる場所になる。こうした廃校プロジェクトは早めのマッチングが必要で、郡上に活躍できる場所があると知りながら市外へ出れば、将来、戻ってくる選択も考えられる。ただし、古い校舎などはドラマのロケ地などで使用されることも考えられ、古いまま残す方がよい。若者が物足りないと思う大和なので、夢を追える場所なるとよい。

▼市長

学校をどうするかについては、大事な事であり丁寧に地域の皆さんのご意見をお聞きし進めていきたい。郡上市では来年4月から西和良小学校が無くなり和良小学校へ統合される。地域の皆さんも空いた学校の活用について検討している。小学校は地域の高齢者世代にとっては、学校教育の場であるだけでなく、地区の運動会や行事を行う精神的拠り所としての側面もある。学校のあった場所が何もなくすることは非常にさびしく、ご意見のような夢も含め新しい機能を持ち、地域に活用されれば地域のご理解もいただけると考える。

▼教育長

郡上市スポーツアンバサダーの平岡卓さんと話をしたとき、アメリカでは100%の子どもがスケートボードを行っている聞いた。遊びだけでなく、交通手段の一つとして日常的に使われており、アメリカでご提案の様な施設があれば、若者たちも求めていると考える。しかし、日本では日常的に使用している子どもはあまりおらず、郡上ではスキーやアユ釣りなどの体験ができる場所へ子どもたちは集まると考える。先ほど1年生は6人という話でしたが、今回統合する西和良小学校は全校生徒が4人である。地域では学校跡地の利活用について話が出てきているが、今回のように多くの人から提案をいただくことは非常にうれしいことだ。

◆発言者①

年配の人からすると小学校の壁の色を変えてしまう事に抵抗があると思うが、全国でも同じような問題が出てくる中で何か面白いことが郡上があれば、人が多く集まったり、楽しい雰囲気になったりするのご検討していただきたい。

◆発言者②

6月に東京から大和町大間見のおじいさんの家へ奥さんと2歳の子どもと引っ越した。いわゆる孫ターンである。郡上カンパニーの第1期メンバーとして、都市と農村をつなぐ、「どぶろく文化発行人」という新しい事業を作るプロジェクトを行っている。大和ではどぶろくが2銘柄あるが、それに加え新たに3つ目の銘柄を米から作り、農家民宿を運営しながら郡上の良さを都市部の人たちへ発信して行こうと考えてる。現在、移住して半年ほどだが郡上の人々の心のあたたかさや自然環境に圧倒されている。東京では、焼き菓子屋を夫婦で営んでいたが、目の前の仕事や情報に追われる毎日だった。郡上では、直接的な人とのつながりや、季節の流れに沿った生活がおくれる。子ども達にとって、心の豊かさにつながる教育ができる場所だ。頭で考えることが先に立ち精神的に疲弊している現代社会だが、様々なものを郡上では体感して皮膚で感じる事ができる土壌が残っており、何度も自分で考えてやってみる循環がとても大事だと思う。失敗してもまた試す余裕が郡上にはある。未来を考える中で、無限の可能性のある子ども達に大人がどう向き合えるか、郡上の山や川で育った大人たちがどれだけ笑顔でいられるかが大事だ。先人たちが作ったどぶろく文化を通じ、母袋で自然を肌で感じられる農家民宿を作る予定。質問だが市長さんの郡上での楽しみは何があるだろうか。そして、それをどのように子たちに伝えていかれるか。

▼市長

孫ターンありがとうございます。おじいさんは地区の運動会の名アナウンサーであった。そのお孫さんが帰ってきてくれたことをうれしく思う。郡上カンパニーという取り組みは、市の施策で郡上の地域資源を活用してビジネスを興し、都会からUターンIターンした人と組んで行う仕事である。ぜひ成功させていただきたい。

私も郡上市へ戻ってきてほっとする。自然などゆったりしているし、人間関係やおどりなどを楽しんでいる。給料など金銭的な面で高い水準を望むことは難しいが、それ以上に良いところが多くある。学校、地域で郡上の楽しさを伝えられるよう郡上学を行っているが、子ども達には様々な体験しながら学んでいてもらいたい。現在、大和では子ども達の地域活動を行っていただいているが、地域と共に育っていくことが大事だと思う。進学就職で市外へ出る事は必然的な所があるが、経験を積んで帰ってきてもらえるような子どもが育てられないかと思う。ぜひ、成功事例を作っていただきたい。

◆発言者③

大和に住んでいる人が、現実と向き合って悲観することなく楽しく過ごしてほしい。楽しい暮らしのベースとなるのは、ふるさと大和にとらわれない人とのつながりだと思う。私は、コミシス郡上で働いており、みんなの力を出し合い地域の活性化と発展を目的に活動している。その中で、地域情報誌「まるっと大和」を作成しており、大和地域協議会という堅い団体だが、みんなで大和を良くする

ための意見が集まる場所だ。人々のつながりが感じられるような取り組みと各機関の情報発信を行うため制作している。「まるっと大和」というタイトルは、大和の中学生に付けていただいた。この冊子は2500部発行して大和の全戸に配布している。大和の身近な情報を発信し、得意分野や個性を發揮して活動を楽しんだり大和に住む人の居場所や出番を見つけ、生きがいにしていきたい。市主導の地域行事は堅いので、そういったものは広報郡上でお知らせしていただき「まるっと大和」は大和に特化した紙面づくりをしていきたい。例えば、少人数のサークル活動を紹介したり、子どもが生まれた情報を載せたり、広報郡上には載せられないような小さな出来事を多く載せて地域の回覧板の様なものにしたい。子どもたちや地域の皆さんには、いろんな活動に興味を持ってもらったり、地域を愛する心を育む参加型のまちづくりをしていくことで、思いやりの心やコミュニケーション能力のある子どもに育つきっかけになるような情報誌を目指している。現在「まるっと大和」は4号発行されているが、読んでいただいた感想をお聞きしたい。

▼市長

我が家にも届いており、大変すばらしいものだと思う。特に身近な人が掲載されており、親しみやすいと思う。ところで市が発行している広報郡上は読んでおられるだろうか。

◆発言者③

はい。少しだけ。

▼市長

そこが、広報郡上の悩みである。少しでも読んでいただければありがたいが、他の広告と一緒にすぐに捨てられたり、全戸配布は不必要なので回覧してもらえば十分とご意見をいただく、我々としては非常に大切な情報をお知らせしている。内容が堅く漢字が多いので、担当者へは週刊誌の見出しの付け方を勉強してほしいと話している。郡上プラスという冊子があるが、市長コラムという欄をいただき、肩肘張らない日頃感じたことを掲載している。肉声を伝えると言う事が大事だと思う。「まるっと大和」も地域の多くの方が掲載され、みんなの顔が見えるような広報誌にしてもらおうと思う。

◆発言者④

昨年11月に移動スーパーを開業した。約1年経過し感じた事や課題が見えてきたので、活動を紹介市長さんにお聞きしたいことがある。現在、明宝や八幡町の一部、大和の一部を週6日回り営業している。子どもの頃、毎週金曜日になると演歌を流しながらやってくる移動販売が楽しみでよく利用していた。今でも、私の車を見ると大人には懐かしく、子どもには新鮮に見えるようだ。地域の発展活性化のため貢献できるように活動している。開業して1年たったが、この郡上でも隣同士でも1か月以上顔を合わせない事があるとお客様との会話で知る事ができた。昼間仕事で外へ出ている若い世代ならまだしも、高齢者からこのような話が出て驚いた。今では、自分の活動が人の輪を作っていることに喜びを感じている。全国的に高齢者の買い物問題が深刻になっている。郡上市でも近い将来大きな問題になると思う。市として対策は考えてあるか。移動販売を必要としている方は多くみえる

し、さらに需要も増えてくると思われる。しかし、この仕事を開業してまで商売をする人は少ないと思われ、郡上市が個人または企業に「ふれあいバス」の様な形で業務委託できないか。

▼市長

住民の高齢化や近所の個人商店がなくなるなど、気軽に買い物をすることができなくなってきている。大和には、比較的大きなショッピングセンターがあり買い物環境に恵まれているとも言えるが、その他の小規模な商店の数は減り高齢者などがすぐに買い物に行くことは難しくなっている。また、八幡町では、市街地南部にあったショッピングセンターが撤退し、周辺の高齢者が気軽に買い物することができなくなった。撤退する際には、継続して開業する店舗ができると聞いていたが実現されなかった。

この場所でも移動スーパーを行っておられるか？

◆発言者④

はい。週に一度伺っている。

▼市長

市では、公共交通など利用して買い物に行ける方法を考えているが、現在の自主運行バスの便数では利便性に欠ける面もあり、住民同士で支えあって買い物に行くことや、高橋さんの取り組んでおられる移動販売なども必要だと考える。また、市では買い物に限らず、市民に必須なサービスは、商工会からの意見も聞いた上で一定の設備に対して助成しており、委託方式よりは何らかの形でサポートをしていきたいと考える。現在、日常生活品販売やガソリンスタンドなど維持するのが難しいところがあるが、皆で知恵を絞っていきたい。また市全体のことだが、観光客向けだけでなく日常生活品が買えるような施設として道の駅の活用も必要だと考える。現在、道の駅明宝などは従来の道の駅から地域の福祉拠点としての機能を持つ場所へと進めている。

▼教育長（閉会あいさつ）

郡上の子ども達は全国学力状況調査では3教科とも全国平均以上だが、その調査のアンケートに「あなたの夢や目標がありますか」という質問があり、ここ3年間全国平均を下回っている。この部分を改善しなければならない。なぜならば、「人は夢を育て 夢は人を育てる」と言います。今日発言していただいたように「夢があるから頑張れる」と言う事につながる。そのような夢を「まるっとやまと」でも紹介していただき、子育てなどに生かしていただきたいと思う。